

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	90	実施計画番号	25	
事務事業名	ふるさと出前きらめき講座		事業開始年度	平成12年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業	
背景や経緯等	市政に対する理解を深め、市民と行政が協働で生涯学習によるまちづくりを目指すため、平成12年度より13年間継続して実施している。			
事務事業の目的	市民が主催する集会などに市職員が講師として出向き、市政の説明や専門的知識を活かした講座を行うことで、市政に対する理解を深め、市民と行政が協働で生涯学習によるまちづくりを推進する。			
実施状況	受講者数延べ 4,158名。 利用件数 120件。 学校等による施設見学のほか、健康・医療についての講座の利用が多い。			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	25	35	32
	人件費(千円)	900	1,260	1,152
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	0	0	0
うち一般財源	0	0	0
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		回	77	120	110	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		人	2,986	4,158	4,000	
成果指標	成果指標名①					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		人	目標値	3,500	3,500	4,000
			実績値	2,986	4,158	
			達成度(%)	85%	119%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
			目標値			
			実績値			
	達成度(%)					

十和田市事務事業評価シート

整理No	90
計画No	25

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市の事業内容等の説明が主目的であるため、行政以外が実施主体にはならないと考える。 市民・時代のニーズに合う内容となるよう講座メニューを見直している。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 ・担当課においては、できるだけ受講者の希望をに合わせて対応している。 ・メニュー内容の工夫が必要。 ・施設見学以外の講座は、利用に偏りがある。
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 庁内各課・館との連携により事業を実施できている。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 市内在住等している団体が対象。受講料は無料だが、施設見学の入館料などの実費負担は徴収している。
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	19 / 20	改善の余地 1 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由 市民の方々に、市政に対する理解を深めるための事業であり、施設見学や医療・介護に関することなど幅広い分野の内容について、市の職員が講師となって無料で開催する講座である。市民にとっても利用しやすい事業の一つであり、今後も継続して実施したい。
今後の具体的な取組方策と狙う効果 庁内の各課においては、市民ニーズや時代のニーズにあった内容の講座を実施してもらうとともに、周知に力を入れて広く市民に利用してもらうようにしていきたい。